

第4回魚津市総合計画審議会 議事録

【日 時】 令和2年6月4日（木）15：00～17：15

【場 所】 魚津市埋没林博物館 研修室

【会 長】 清水 正明（北陸職業能力開発大学校長）

【出席委員】 21名

石塚委員、上野委員、浦田委員、大崎委員、大澤委員、柿本委員、河内委員、川戸委員、木下委員、島津委員、中野委員、宮田委員、南部委員、濱住委員、稗畠委員、淵上委員、吉岡委員、吉森委員、米澤賢委員、米澤陽委員（欠席：井出委員、大森委員、長谷川委員）

【市当局】 村椿市長、四十万副市長、富居企画総務部長、南塚民生部長、宮野産業建設部長、窪田教育委員会次長、牧上下水道局次長、江田企画総務部次長（企画政策課長）（事務局）戸田企画政策課長代理、込山企画政策課主事

15：00 開会

事務局 第4回魚津市総合計画審議会を開会。

委員24名のうち、3名欠席連絡あり。

事前配布資料の確認。

年度が替わり、魚津市銀行会からの委員が宮田俊英委員に変更となった。あわせて、新川青年会議所より吉森理事長が初参加となる。市当局側も人事異動があったため、紹介する。

事務局 会議の進行を清水会長に依頼したい。

会長 気温が30度を超えている模様。暑さは油断ならぬゆえ、早めに終わりたいと思う。

本日の議事は「(1)魚津市総合計画 序論及び基本構想について」が主になる。序論部分と基本構想部分とに分けて皆さんの意見を伺いたい。では事務局から説明をお願いしたい。

事務局 資料1説明

会長 事前に配布された資料を読んできてもらっているという前提で、各委員から意見を伺いたい。

A委員 観光関係に従事している。「魚津市の良さ」はたくさんあり、多くの市民に知ってほしい。市民が魚津市自身を知ることが重要。観光資源が多くあることを改めて知ったという人も多いが、観光に対する意識をますます高めたい。特に松倉城、桃山レッドライン、天神山エリアに力を入れていただきたい。市と協力しながらもう少し力を入れて、アンケート結果にもある「観光資源を活かしきれていない」＝約40%というのを改善したい。

B委員 今回で4回目の審議会。これまでも出された皆さんの意見を聞いていると少子高齢化が深刻な課題。自治会の維持管理が難しくなっている。現在、土地改良区の仕事をしているが、皆70代後半。“次の担い手”がいるだろうか心配になる。また、一次産業が疎かになっているようだ。景観・環境維持はできるかと心配になる。耕作放棄地を阻止したいと思う。とにかく、後継者を確保することが大事。市民参画・協働というのはとても大切な視

点である。我々はこれまで要望ばかりしてきたのではないかと反省している。

C委員 ここに書かれていることはどれも大事なことばかり。魚津というまちは、小さなまちであり、一人ひとりの声が届きやすいまちである。私がこのように参加できるという喜びの反面、みんなの声が届きすぎるのではないか？例えば子育て対策。課題解決にあたって、ある一面を捉えると、廻りはどうなのか？定住・移住や高齢者は？付随する課題があると思う。朝日町は子育てや空家対策にとっても熱心というイメージがある。移住を考えたときに核となるものがあるまちに人が集まるのではないか。魚津市は中途半端な感じがしてしまう。まちづくりの施策において、何か核となるものが必要なのではないか。その方が方向性を見つけやすい。

D委員 コンパクトシティを目指そう。単に小さなということではなく、全てが整い、自前のできるまちという意味で考えている。現在の厳しい日常を踏まえ、アフターコロナ対策が必要。魚津市が他から選ばれる市であってほしい。もう1点、インフラが老朽化している。市民に我慢を依頼している状況であり、もう少し広域で対処してもらってもいいのではないか。主要課題の11と12はとても重要だと思う。

E委員 誰もが住みやすい、充実して生きられるまちであってほしい。先日、がん患者さんへのウィッグ助成というのがあった。とても素晴らしい。あと、空き家を掃除するときにも水道の開栓基本料が必要。これ、何とかならないか？他に、学校におけるWi-Fi整備の状況はどうなのか知りたい。

F委員 主要課題10,11,12について。前回の会議で、ある委員が「人口減少に歯止めがかかれば多くの課題が解決される」という意見があった。「人口」をターゲットにすれば農業、林業、漁業などの様々な担い手対策にもなる。計画の中の太い柱として「人口増」を掲げてすべての取り組みをこれに関連付けてはどうか？コロナの影響で地域レスが進んでいる。また、就活生が東京など遠方からWEBで面談を行う方法がある。メリット/デメリットがあると思うが、積極的にPRしていくべきだと思う。

G委員 「市民協働」が大切。ボランティア活動で松枯れ対策などを行っている。ボランティア活動には人によって、得意不得意がある。県レベルで実施しているボランティア活動では、サポートセンターに多くの魚津市の登録者がいる。様々なニーズに応じて活用していただきたい。

H委員 主要課題11,12について。魚津市に限った話ではなく全国で対応が急速に進んでいくと思う。コロナの影響で東京から地方へ視点が向けられている。オンライン授業などが始まっているが、教育格差が生まれることの無いようにしてほしい。情報網の整備で可能性が広がる。安心、安全、快適なまちの整備が必要だと考える。

I委員 主要課題6,7について「空き家空き地対策」に関して、郊外への移住が増えている。コンパクトシティの実現には、広いコンセンサスが必要となってきている。例えば、公共交通利用について、中山間地の人たちにも丁寧な説明が必要である。企業誘致について。滑川の広貫堂の前は整地済み用地である。声掛けがあってからでは遅い。休耕田の具体的活

用法を検討しないとイケない。「農学栄えて農業滅びる」とならぬように。

J委員 農家においては、コロナの影響はさほどなし。また、消防団においてもコロナ禍で特段の活動なし。主要課題 8 については記載されているとおり。

K委員 4月に婦中から魚津に異動してきた。婦中町は以前、人口約3万人で現在は4.2万人。魚津市も4.2万人。魚津市のイメージは、呉東のトップ。だが、魚津市では人口減で婦中は人口増。働く場所が近くにあること、住みやすく平らな土地が安く手に入るという点が婦中にはある。通勤のため8号線を走っていると、魚津方面はスムーズに走れるが、反対車線は混んでいる。まさに働く場所の課題があるといえる。人口減少はやはり元凶と言え、減らさない対策が必要。また、テレワークなどの活用を含め、コロナ対策を市として積極的に行わないとイケない。人を減らさない、増やすための施策を進めてほしい。魚津市を実体験してからまた発言させてもらいたい。

L委員 森林組合としてはコロナの影響はなし。木材単価が安くなり始めていると感じている。雇用や就職支援、後継者対策などを強くお願いしたい。また、資格取得支援や耕作放棄地対策もお願いしたい。

M委員 主要課題 11, 12 が重要。コロナ対策にも関連するが、高齢者が散歩に出ても安全安心なまちであってほしい。体育協会としては、県内の主なスポーツ大会は、富山／高岡／射水で行われる。トップアスリートを育成する取り組みはもちろん、もっと一般市民をターゲットにした取組を進めてほしい。また、高齢者へのIoT対策も進めてほしい。

N委員 市民意識調査結果について。産業振興における重点として、「企業誘致の促進」が約4割という結果。中小企業の誘致を強力に進めるべき。住む場所を選択するための基準として重視される、子どもを育てやすい環境を、教育環境の充実をお願いしたい。また、Iターンについて、女性の比率が少ない。大卒女性の就職先としての魅力づくり、住みやすさづくり、あわせて在宅診療をはじめとした注目されるようなICT施策を打ち出し、家庭に入り込むICT技術の活用、そういったところを先陣切って進めてほしい。住宅を建てないと人口が増えないが、固定資産税が高く若者にネックであればそこに手を打っていく必要がある。

O委員 コロナの影響(実害)はどのようなものか?とにかく手を打っていないと事業者が成り立たない課題である。「魚津市の主要課題」を魚津市としてどうすればよいのか?海岸線廻り、立山連峰の光景など資源は日本一だと思っている。そこを売りにして、広く打ち出していく。また、魚津市は安全であり恵まれていると思う。遊休地を子どもの遊び場と交流の場にする事で住む場所として選択されるのではないか。住民と地域を守ることを第一にしつつ、住民を守るという部分をビジネスすることも一つ。インター近くに物流センターを作り雇用を増やすのも一手。魚津の技術・人材なら安全安心の確保をビジネスにすることは可能である。市役所がプロジェクトを組んで進めてほしい。キーワードは観光と安全。

P委員 コロナの大打撃を受けている。売上は75%減少。金沢の店舗など観光地は特に打撃を受けている。富山県は生産県である。農業、漁業、林業などが元気になれば、産業は発

展する。様々な課題はあるが、人口増になれば解決する。観光は一時的でしかない。長期的に滞在する人々を増やし、地元の人たちと融合させることで新たなまちづくりとなる。そのためにも市民の意識を変えていかないといけない。先ほど、朝日町の事例が出た。魚津市は中途半端にいいまちだと思う。市民の危機感が不足している。魚津に帰ってきたいという気持ちを持ち、点を面にして塊にしていけないといけない。コロナ禍の副産物ではないが、IoTの活用等により東京に居る必要がなくなったともいえる。豊かな環境で子育てをしながら仕事もできるアピールをしていくこと。情報通信環境と教育環境の充実がなければ子育て世代からは選ばれない。課外授業として、魚津市の第一次産業の魅力を子どもたちへの伝承のために必要である。

Q委員 課題の多さにびっくりしている。福祉関連が気になる。支援が必要な子どもたちが一人の子どもとして学べる環境づくりという視点を持ってほしい。高齢化は一言で言っても認知症対策や独居・空家問題といった多様なニーズともつながるため、課題の視点として不足する分の追加をお願いします。

R委員 P委員の意見を聞いてなるほどと思った。ふるさとに対する肯定感の醸成は大切なことであり、強く優しい人間づくりに繋がる。第一次産業の支援問題も大事。後継者の不足を実感する。ドローンを使った農薬散布を見ることもある。必要なところに必要な技術を投入し、自然と人と技術が融合した社会になってほしい。

S委員 コロナの影響で「当たり前」が当たり前でないことを実感している。計画づくりはとても重要。今一番必要なのは何か？早く手を打たないと後手に回る。スピード感が必要だと思う。新たな時代に生きていることを自覚し、一人一人が考え行動していく。IT技術の活用は重要な視点となってくる。

T委員 文化イベントが中止になっている。文化は伝承・継承である。あと、祖父母の同居率が高いこと、面倒を見てもらえる人が多いことはいいことだと思う。様々な面で祖父母世代から伝えていくことで前に進めることがあるのではないかと。子どもが誇りを持ち、育むふるさとがあればよい。

会長 少子高齢化の進行という点が共通して挙げられている課題。1～12の重点的課題とその周辺にあるサブ課題をしっかりと整理してほしい。10の人口減少と4や5の課題は関連している。一体の課題としてやり抜くようにしてほしい。

では、続いて、基本構想について事務局より説明をお願いしたい。

事務局 資料1及び資料2-1、2-2説明

会長 将来都市像についての説明であった。皆さんから意見をいただきたい。

S委員 海・山を活かしたまちづくりがよい。魚津市の良さを市民に向かってもっとアピールしてもよいと思う。NICE TVで市長・副市長・各部長などが出演し、もっとアピールしてはどうか。

R委員 誰もがそらんじられるくらい端的なほうが良いと思うが、総意をあらわすことからこの案でよいと思う。施策分野で13個あるが、市民が最低でも一つの関心のある部分に

所属するグループづくりがあると意識醸成につながるのではないか。

Q委員 自分の団体でもつなぐという言葉重視しており、福祉の面からもいいと思う。

P委員 若い世代向けの固定資産税の減免をお願いしたい。空家を調査し、住めるように。学校整備をしても子どもがいなければ意味がないので対策をお願いしたい。

O委員 このフレーズが、市民にどう伝わるか、どう理解されるか？またSDGsと結び付くか検討が必要。

N委員 コロナ対策について。政府の対策は法の整備が遅い。魚津市はこのままでは衰退してしまう。萎縮することなく進んでほしい。

M委員 コミュニケーションの重要性。今は良い子がたくさんいる。もっとわんぱくな人(子)が中心になって活躍してほしい。市内の地域連携でにぎわいづくりをしていく。またe-スポーツへ力を注入してほしい。

L委員 魚津の魅力若い人たちは知らない。危機感を持って伝えていくことが必要。

K委員 よいフレーズだと思う。施策分野の具体性が重要であるためしっかりと検討し、示してもらえるとよい。

J委員 市庁舎を海拔の高いところへ持って行ってほしい。

I委員 この基本構想で良いと考える。政策や施策について、行政でしっかりと検討してほしい。

H委員 まちづくりは人口に左右される。適正な人口値を見極めながら、それに向かって取り組んでほしい。

G委員 すべての人が気持ちよく生活できるようにあってほしい。お互いさまの気持ち、辛抱が少し足りないか。将来都市像についてはおおむね問題ないと思うが、魚津の部分を変えてしまうとどこでも通用するものになってしまうので面白くない。工夫をお願いしたい。

F委員 市民にどれだけ浸透するか？NICE TVでのアピールはよいアイデア。政策の6で「子ども」とあるが、その前段階として「出会い」が必要と考える。旧来の型にとらわれないパートナーシップ持って住めるまちを目指していくと良い。

E委員 滑川の児童センターはとても人気。魚津にもそういった喜ばれる児童センター(ハコモノ)を建ててほしい。教員経験者や看護師などを配置して安心できる場所づくりをしてもらいたい。

D委員 「人」と「自然」がキーワード。すべて人が関わってくる。発展に向けた人材育成と自然の恵みが重要な要素。

C委員 将来都市像の「魚津」の部分他市の市名に変えても通用する理想論だと思う。危機感を感じながらも出口の見えない人たちがいる。この実現に向けては、明確な目標を持つ強いリーダーが必要である。リーダーの周りでは、個人や企業といった範囲での動きが必ず起きてくる。目玉となるものがあると同じ方向を向きやすい。

B委員 計画においては、誰がいつまでに、そして市民の役割、それらを明確にする必要がある。魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり協議会において、「魚津の顔」づくりを進めてきた。

これはふるさとづくりであり、「市民とともに」進めていくことが大切。

A委員 コロナ禍をきっかけに見つめ直す機会である。魚津市は蜃気楼推しである。過去の魚津市、いまの魚津市、市民が魚津市を見直す機会だと思う。

会長 各委員から様々な意見がでた。では、その他について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 説明（追加配付資料説明）

会長 長時間にわたり議論いただいた。心より感謝する。

事務局 市長より挨拶。

市長 長時間の対応に感謝します。市ではコロナ対策の第一段階として、感染防止に全力集中し、スタートした。必要物品の配布を行った。あわせて集客施設の休業を行った。4月30日に給付金を含む43億円を市長専決とした。5月上旬に緊急申請窓口設置、5月22日申込書を送付し、申込開始した。6月4日現在83%対応済み。円滑に申請いただいた。国の緊急事態宣言解除を受けて、中小企業支援・生活困窮者対策を5月12日市議会臨時会へ上程。これが第2段階。6月5日からの6月定例会に第3弾として4.6億の補正予算を上程。市民生活の安全確保と地域経済の活性化を目的とする。これが第3段階。プレミアム商品券等で地元でお金を回す対策を進めている。市出身の県外大学に通う学生を対象に魚津のふるさと便を送ることとした。委員からの意見でもあった学校でのタブレット対応だが、元々は3年くらいかけて行う予定だったが、この状況をふまえ、オンライン学習を進める観点から年度内に対応するようにした。整備だけではなく、活用が重要と考えており、効果的な家庭学習をサポートする取組みを行っていききたい。ふるさと納税だが、昨年比で件数4.6倍、金額6.6倍に伸びている。コロナの影響もあるが、確実に復活すると考えており、今年目標は2億円を目標としている。魚津市にはそのポテンシャルがあると考えている。今回のコロナ禍による環境変化を逆手に取っていく。地方の密でない環境、自然豊かで暮らしやすい環境が見直されつつある。若い世代の就業意識も都会から地方へシフトしつつある。放っておいては効果が生まれてこないため、活かすことができるような環境づくりをしていくことが新たな計画作りで我々がやっていくべきこと。そのときに単にICT技術をただ導入するだけではなく、高齢者にこそ利益を享受できるようにしていくことをできる地域こそが生き残っていける地域であると考えている。災害に強く地域の総合力のあるまち、ICT技術の活用能耐えられる地域づくりがこれからのまちづくりに求められると考えている。将来都市像について、魚津らしさを出すためにもサブタイトルを付けるといいかもしれない。キーワードは「子ども」かなと思っている。社会全体で子どもをしつけ育てていけるまちを具体の施策の中に取り入れたいと考えている。

事務局 以上をもって第4回魚津市総合計画審議会を終了する。

17:15 終了